編 集 後 記

北国の夏，豊かに青々と広がる眼前の石狩平野に爽やかなそよ風が吹きわたる昼下り多数の来賓，参会者列席のもとに東日本学園大学歯学会設立総会が始まり，式次第，武田・金澤両教授の記念学術講演と滞りなくかつ有意義に終了した。

編集委員会は翌週より開催し，夏休中の貴重な時間を都合して編集方針，雑誌体裁，原稿募集に先立つ投稿規程および原稿の書き方等の検討に入り，十数回の会を重ねて原案を作り理事会の承認をへて投稿募集の通知・掲示を出したのは一ケ月後の９月初旬であった。

取りあえず本年度は一回のみの発行とし12月末創刊号を，したがって原稿の締切りはぎりぎりの10月12日としたが，投稿希望の方々には時間的余裕が殆んどなく，委員会としても果して集るやと大いに危惧したところ，本誌のように原著論文10編，臨床報告３編，記念講演である総説２編を加えて，思いがけない数となり委員一同喜びと整理に慌てる始末となった。

ここに原稿募集の発表から締切りまでの短い期間にも拘らず投稿された各位に心よりのお禮と，とくに本誌の創刊にあたり本学の渡辺理事長，安倍学長２先生よりご祝辞を賜ったことは感激の至りで紙上をかり深く感謝を申し上げる次第である。

また本誌表紙等の体裁は堀越専務理事発案のものを基調とし，本学会の生々発展を示すシンボルカラーとしてブリリアントブルーを用い落ついた気品のあるものと自讃している。

雑誌本文の組み版についても９ポ活字の体裁読み易いものとし，さつ抜刷時の体裁のよい奇数頁よりすべておこし，このため最終頁はブランクのこともあるが，別冊はすっきりとした見映えのあるものでご投稿各位のご満足が頂けることと思う。

この他“海外リポート”として海外に出張された方に依頼し肩のこらない研修大学あるいは学会紹介の記事とした。

広告についても真にご協力の確実な商社のみに限り余り多くしない方針である。

なお，本誌は創刊号ということで慎重を期したこと，編集委員，印刷関係者ともに不馴れなことから最善の努力を払ったものの大幅な発行遅れを来し心よりお詫び申し上げねばならない。

今後とも会員各位のご鞭撻・ご叱正を頂きさらに格調の高い雑誌を目指すものであるが，内容については会員の熱のこもった真摯な研究成果の積極的発表投稿をお願いするのみで一層の絶大なるご後援・ご協力を期待し編集後記とする。　　（Ｙ・Ｏ生）